

【公開講演会】

世紀転換期の文学と美術における樹木の言葉

Conférence
Sophie Basch
(Université Paris-Sorbonne)

講師 **ソフィー・バッシュ**
(パリ＝ソルボンヌ大学教授)

2019年5月27日(月) 18:00-19:30
立教大学池袋キャンパス
11号館A203教室

プルーストと テオドール・ルソー

Le langage des arbres dans la littérature et la peinture au tournant du XIX^e siècle :
Proust et Théodore Rousseau

コメンテーター **小黒 昌文**
(駒澤大学准教授)

司会・通訳 **坂本 浩也**
(立教大学教授)

主催 立教大学文学部文学科フランス文学専修
申込不要、入場無料。
フランス語（日本語通訳あり）。

問合せ先

学部事務1課（03-3985-3392）
proust.rikkyo@gmail.com
Twitter@proust_rikkyo

この講演会は、JSPS 科研費 JP18K00490「マルセル・プルーストと大衆化の力学：小説の生成過程と受容過程をめぐる表象史研究」の助成を受けています。

【公開講演会】

世紀転換期の文学と美術における樹木の言葉 プルーストとテオドール・ルソー

Le langage des arbres dans la littérature et la peinture au tournant du XIX^e siècle Proust et Théodore Rousseau

2019年5月27日（月）18：00～19：30

立教大学池袋キャンパス 11号館A203教室

フランス語、日本語通訳あり

プルーストの小説『失われた時を求めて』にあらわれる樹木のイメージを出発点にして、とりわけバルビゾン派の画家テオドール・ルソーに注目しながら、同時代の文学と美術、さらには複製技術による絵画作品の流通との関係を明らかにします。

講師

ソフィー・バッシュ氏

（パリ＝ソルボンヌ大学教授）

Sophie Basch (Université Paris-Sorbonne)

ブリュッセル自由大学で博士号を取得。2007年より現職。2016年よりベルギー王立フランス語フランス文学アカデミー会員。

専門は、19-20世紀フランス文学とオリエンタリズム、考古学、装飾芸術との関係。ギリシャやヴェネツィアのイメージを扱った著作のほか、プルーストの小説におけるアール・ヌーヴォーとドレフュス事件の関係を論じた著作 (*Rastaquarium, Marcel Proust et le « modern style » : Arts décoratifs et politique dans « À la recherche du temps perdu »*, Brepols, 2014) で知られる。

コメンテーター

小黑 昌文（駒澤大学准教授）Masafumi OGURO

パリのエコール・ノルマル（フントネー／サン＝クルー校）およびパリ第3大学への留学を経て、京都大学で博士号（文学）を取得。

著書に『プルースト 芸術と土地』（名古屋大学出版会、2009年）。訳書（澤田直との共訳）に、フィリップ・フォレスト『夢、ゆきかひて』（白水社、2013年）、『シュレーディンガーの猫を追って』（河出書房新社、2017年）など。

司会・通訳

坂本 浩也（立教大学教授）Hiroya SAKAMOTO

パリ第4大学博士（文学）。著書に『プルーストの黙示録——『失われた時を求めて』と第一次世界大戦』（慶應義塾大学出版会、2015年）。

立教大学で開催中の公開セミナー「新訳でプルーストを読破する」のレポート「それぞれの『失われた時を求めて』」を「web岩波 たねをまく」にて連載中。

会場アクセス（池袋駅西口より徒歩7分）

正門に入ってまっすぐ進み、本館を抜けて右へ曲がると、ガラス張りの11号館が見えます。エレベーターまたは階段で2階のA203教室へお越しください。📍



ミレーとルソーの記念碑（幻灯のためのスライド）

